宇賀っしょい（学校キャラ）で「宇賀のまち」生き生き元気にプロジェクト！！
～ふるさとに学び、ふるさとを愛する宇賀っ子の育成～

下関市立宇賀小学校
校長　三好恵子

１　はじめに

本校では、社会科や総合的な学習の時間を活用し、宇賀の偉人や古くからある寺社等「人・もの・こと」について、現地見学や出前講座により地域の方から学んでいる。また、地域の方を講師にクラブ活動（グラウンドゴルフ・ニュースポーツ）や文化伝承交流会でつながりを深め、登下校の見守りも長年にわたり地域の方に担っていただいている。地域の愛は深く、子どもたちもそんなふるさと宇賀のことが大好きである。

６月の宇賀小会議の中で、子どもたちは、「青い海と緑の山、響灘に沈むきれいな夕日」「地域の方がやさしく子どもからお年寄りまでみんな仲良し」「地域のだれとでも挨拶ができる」など、宇賀の自慢を瞳を輝かせながら発表していた。唯一の懸念は、ふるさと学習にかかわってくださる地域の方が、年々高齢化していること。これまで以上に、子どもたちの感謝の気持ちや元気を地域に届けることはできないかと考えたのが、本プロジェクトである。

宇賀小会議「ふるさと宇賀じまん」

２　マスコットキャラクター「宇賀っしょい」の活用

第１回学校運営協議会で、全校宇賀小会議での児童の思い（上記）を伝えるとともに、前年２月に地域とＺｏｏｍで繋ぎ誕生した「宇賀っしょい」について、改めてそこに込められた意味や願いを伝えた。学校への親近感をさらに高め、グッズの活用等で一体感を育み、地域・家庭・学校を更に生き生き元気にしたいとの願いを込めて。

「宇賀っしょいの意味や願い」
～ふるさとの学びが溢れている～

「木製宇賀っしょい」現る
～地域の方より～

「うちわ」のアイデア

すると、地域の方から大きな反響があり、早速、木製（手づくり）の宇賀っしょい作ってきてくださったり（玄関や各教室に設置）、運動会でうちわを配付してはどうかとアイデアを形にしてくださったりした。保護者の方からは、コロナ禍ならではの企画（行事等で体温確認できた人に宇賀っしょいシールを貼って目印とする）をいただき、できることを実践していった。すると、ふるさとへの思いや願いが溢れているキャラクターを気に

入ってもらえ、児童にとってもますますふるさとを大切に思う気持ちが高まった。

「宇賀っしょいシール」　　「食農教育とコラボ」
検温確認シールやステッカーとして／育てた落花生を学習発表会のご褒美として

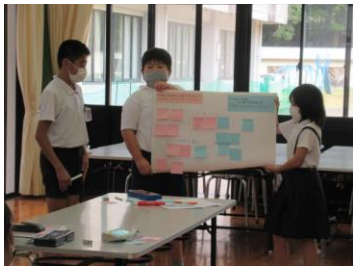
３　ふるさとのために自分たちができること

ふるさとを愛する宇賀っ子の育成に向け、子どもたちの主体性を生かした前例にとらわれない新たな活動を仕組む、付けたい力を意識して、従来の取組にアレンジを加えて再構築するなど、創意工夫あるふるさと学習を展開した。

①ふるさとピカピカ大作戦

従来行っていた学校周辺のゴミ拾いに加え、保護者や自治会の力を結集して廃品回収を行った。「ふだんはあまり気にしてなかったけれど、こんなにゴミが落ちていると初めて知りました。」ゴミは大きめの透明ビニール袋に５袋分､廃品は大型トラック３台分。高齢の方からは「またやってください。本当に助かります！」とのお言葉をいただき、地域のお役に立てたことを実感する時間となった。子どもたちからは「海をきれいにしたい」という願いもあがっており、今後は、環境学習とも紐付け、宇賀海岸清掃や漂着ゴミ問題を考える学習へと発展させていきたい。

②熟議に参画



５・６年生１３名は、９月の第２回学校運営協議会に参画、宇賀小・宇賀のまちをさらにブラッシュアップするための方策を熟議した。学校評価アンケート結果をもとに、あいさつ・読書など、もっと推進するにはどうしたらよいかを、参加者である地域・保護者の方と協議した。「地域の人と色々話せて楽しかった。地域のために自分たちができることがまだまだあると分かった」「アイデアがたくさん出てきてすごかった。今日のアイデアをもとに、全校宇賀小会議で話し合って宇賀みんなの活動にしたい」と意気込んだ。地域の方とのつながりの深さを実感し、自分たちも地域の一員として何かしたいという思いを強くしたようであった。

③ふるさと宇賀っ子ガイドに初チャレンジ

これまで、地域の人に教わりながらどちらかと言えば受け身で参加していた「ふれあいウオーク」（ふるさと遠足）に代わり、豊浦町まちづくり協議会やスポーツ振興会、社会福祉協議会、青少年育成協議会の協力を得て、「フットパスｉｎ宇賀」を開催した。地域・保護者・学校の総勢約１００名で、宇賀の宝「人・もの・こと」を巡り歩いた。

今年は、教わる立場から主体的な発信者へ。３～６年生の子どもたちが、教わったことへの感謝の気持ちをこめて、これまで学んだふるさと学習を再構築して発信する「ふるさと宇賀っ子ガイド」に初挑戦した。その時に活躍したのが、６年生と現中１生が作成した「宇賀ぶち好きっちゃマップ」である。これは、宇賀っしょいをモチーフにした、ふるさと学習の集大成。

今年度の研究主題でもある「自ら学びうんと伝え合う宇賀っ子」の姿も具現化することができた。参加者からは、「子どもたちが、これまでの学びを基に堂々と発表している姿に感銘を受けた」と大好評。校歌にも出てくる「鯖釣山」にも登り、保護者も含め地域みんなで食べたお弁当の味は最高であった。

自分たちがつくったマップを手にふるさとを巡ることができ、作成した６年生にとっても大きな達成感を得ることができた。そして、ガイドを担当した児童も、大勢の人の前で伝えることのできた自分に自信をもったはずである。低学年の児童にとっては「自分たちもガイドできるようになりたい」とあこがれを抱いたに違いない。　今後、ふるさと学習の集大成として根付かせると共に、ＳＤＧｓの視点を盛り込んだ未来に生きるふるさと学習へと発展させたい。

大敷網発祥の地（5･6 年生ガイド）

善念寺（3･4 年生ガイド）

鯖釣山の頂上にて

４　終わりに

折しも、令和４年度は宇賀小学校開校１５０周年記念の年である。「つながり」を核とした学校運営を展開していく中で、ふるさとに学び、ふるさとを愛する宇賀っ子の育成を更に推進したい。今年は様々な取組を通して、宇賀っしょいを多くの方に知っていただくことができた。来年は、１５０周年記念色を打ち出した地域運動会やふれあいまつりを計画している。「学校を核とした地域づくり」に、宇賀っしょいを「学校キャラ」として一役担わせたい。

地域あっての学校である。学校が地域の元気づくり・絆づくりの源となれるよう、コロナ禍ではあるができることに懸命に取り組んでいく。

１５０周年記念花壇～地域の方と一緒に～